

八代市地域学校協働活動本部だより 第1号

つなぐ

八代市地域学校協働本部（生涯学習課内）

令和2年7月29日(水)発行 ☎0965-30-1110

「地域学校協働活動」、新たにスタート！

八代市内の各小・中・特別支援学校は、6月に学校を再開して2ヵ月を迎えようとしています。その間、学校では換気や消毒の徹底、授業内容や形態での配慮など、新型コロナウイルス感染防止のために必要な取組みを徹底した上で、児童生徒の健やかな学びを保障する教育活動が行われてきました。地域の皆様にも、マスクの作成や児童生徒が手に触れる箇所の消毒など学校支援等で子どもたちの活動をご支援くださいました。本当にありがとうございました。



さて、本事業は、これまで「地域学校協働活動」「放課後子ども教室」「地域未来塾」それぞれ個別の事業として実施されてきた既存の3事業を統合、コーディネート機能と多様な学校支援活動を充実させた「地域学校協働活動」として新たに本年度スタートしました。地域学校協働活動とは、これまでの学校支援の取り組みとどこが違うのでしょうか。その違いは、端的に表すと、「支援」から「連携・協働」へ。すなわち、地域が学校や子どもたちを応援・支援するという一方向の関係から、地域と学校がパートナーシップに基づき双方向の関係になるということです。これまでの活動をベースに、子どもの成長を軸にして自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を目指していくことになります。

ところで、国語辞典では、「協働とは、同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと」と記されています。学校の先生方とボランティアさんは、共に「子どもたちの健やかな成長」を願って仕事・活動をしており、これは「同じ目的」と言えます。

しかし、これまでボランティア活動の多くは、学校のお手伝いという意識で行われ、先生方も「ボランティアさんに支援してもらおう」と考えてきました。これは本来の意味での「対等な立場」とは言えません。

では、地域と学校の「協働」は、どうすればさらに進むのでしょうか。「協働」の基盤は信頼関係であり、信頼関係を築くには意思の疎通が重要と考えます。「子どもたちのために」と日々頑張っている熱意ある八代市の先生方と地域の方々をうまく繋ぎ（気軽に話ができる場を少しずつ増やししたりしながら）、地域の宝である子どもたちの健やかな成長のために、努力していきたいと思います。

今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

学校協力活動



《代陽小学校 町探検見守り活動 6 / 25》

放課後子ども教室



《昭和小学校 放課後子ども教室開級式 6 / 8》

第2回八代市地域学校協働本部会議 兼 第2回八代市地域学校協働活動地域コーディネーター連絡調整会議が開催されました。

6月29日（月）午後2時から、八代市公民館において第2回八代市地域学校協働本部会議兼第2回八代市地域学校協働活動地域コーディネーター連絡調整会議が開催されました。会議には本部長（教育部長）をはじめとする本部員（八代市教育委員会関係者及び統括コーディネーター、地域コーディネーター）30名が参加し、本部会議では八代市地域学校協働の進捗状況の確認やボランティア人材バンクの整備についての説明、連絡調整会議では事例紹介（三中・麦島校区）や令和2年度強化事業（不登校問題への対応）の説明、事業に関する質疑が行われました。以下は、事例紹介（発表者：坂田智子地域コーディネーター）の概要です。

◎地域学校協働活動におけるコーディネーターとしての活動 ～三中学校区編～

○地域コーディネーターの存在を知ってもらう

- ・学校職員 職員朝会や研修等一堂に会する場を利用
- ・児童/生徒 全校集会・児童集会
- ・保護者 PTA 総会・保護者会・PTA 広報紙等
- ・地域の方々 コミュニティセンター便りに掲載住民自治協議会/まちづくり協議会の会議等の場を利用



○学校と協働活動内容の検討・確認

- * 年間を通じての継続的活動 (例) 定期的な学習支援 (○付け) クラブ活動支援 (月1回)
- * その時間に限る活動 (例) 芋ほり・餅つき・昔あそび 町探検引率

○ボランティアの募集

1. 年度当初に一括して募集
活動自体の広報の意味も含め、A3用紙で募集文書を作成し全世帯へ配布（小学校区）
 2. 活動ごとに募集
 - ・まずは、保護者に呼びかけ！
学級・学年単位の活動 → 学級通信（学年通信）で呼びかけてもらう
全児童・生徒 / 学校全体 → 学校長・PTA 会長連名で募集、文書発行
 - ・活動内容に応じ地域の方々に支援呼びかけ
- ※随時、「学校応援団」（人材リスト）に追加

○担当の先生と打ち合わせ

これを元に、支援者をコーディネート。活動内容に照らし併せて、特定の団体に依頼するのか、個人に依頼するのか、幅広くまち全体へ依頼するのかを検討する。

※人材の確保・発掘/情報の収集・共有

- ◆地域の方々へ（まず知っている人から）自ら積極的に声掛け。
- ◆支援頂いた方から、知人に声掛けして頂き広げていく。
- ◆団体の長さんに依頼し、その会員さんに話を下ろしてもらう。
- ◆町内会長さんから、町内の人材情報をゲット
- ◆地域協議会役員会で情報の発信・地域課題の吸い上げ
- ◆地域の退職校長会の先生に相談
- ◆コミセン便りでボランティアの募集

○活動を繋げる・続ける・広げる

支援者には「楽しかった!」「子供たちに元気をもらった!」とプラスの気持ちで帰ってもらいたい。そうすれば、再度支援頂けるし、別の人達の参加にも繋がる。

そのためには？



「楽しかった・また子供たちと活動したい」と思える活動

- * 活動の目的や支援内容がはっきりわかっている
- * 自分の得意分野が生かせる（知識が技術が生かせる）
- * 子供達や先生が喜んでくれる（お礼を言ってくれる）



学校協力活動紹介

学校協力活動とは地域学校協働活動事業の中で、授業や学校行事等の補助や図書の読み聞かせなど、子供たちが豊かな体験に基づいた学習をするためのお手伝いをするものです。地域ボランティアとして子供たちに自分の得意分野での指導に当たることもあれば、教員だけでは手の届かない環境整備のような支援をする場合もあります。子供たちは地域の大人とふれあうことで、地域社会の中で育っていることを実感しながら学ぶことができます。参加するボランティアさんにとっては、地域のよさや子供たちのいいところを再発見したり、自分の長所に気付かされたりすることもあります。今回は子供たちも大人たちも、一緒に生き生きと活動する姿やボランティアの声をご紹介します。

代陽小学校5年生裁縫実習

代陽小学校では、地域コーディネーター（代陽小は蒲生コーディネーター）が毎週金曜日の午後から学校に出向き、学校と地域を繋ぐ連絡調整を行っています。今回紹介する5年生家庭科実習補助は学校からの要望で企画されました。

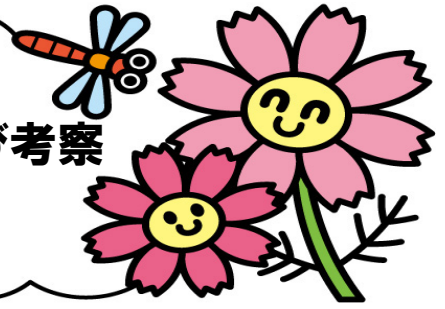
7月29日（木）ボタン付けの依頼が代陽校区婦人会にあり、9名の方が参加しました。当日の裁縫実習は、2つ穴と4つ穴そして1つ穴の3種類のボタン付けでした。ボタンの付け方の説明は、テレビ画面で大変分かりやすく、分からなくなったらテレビ画面を操作しながら学ぶ子供もいて、ビックリ！しました。ただ玉止めや糸通しが上手くできなくて、縫いはじめようとすると、通したばかりの糸が外れ、また糸を通すという姿があり、ボタン付けまでは進まない等個人差が大きいようで、支援の必要性を感じました。最初はお互いに緊張していましたが、丁寧に説明をしたり認め励ましたりしているうちにだんだん打ち解け、楽しい雰囲気になっていきました。

授業の始まりには、婦人会の方の自己紹介がありました。授業の終わりには児童のお礼の言葉と担任から感謝の挨拶があり、「来て良かった」という気持ちになり暑さも吹き飛び、充実した時間を過ごす事ができました。事後には校長室で、校長先生と談話の場もありました。地域婦人会の方と学校の先生方との距離が近まった時間となり、改めて地域学校協働活動を進めるうえで互いの信頼関係が大切であると感じました。

（文責：岡田統括コーディネーター）



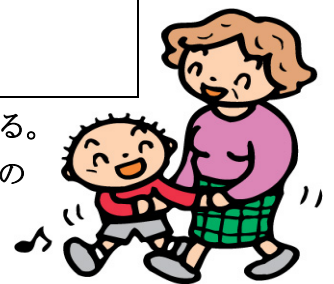
代陽小学校 地域支援者アンケート及び考察



Q1 子供たちを支援して良かったなあと思うときは、どんなときでしたか。

- ・自分を頼ってくれた時。うまくできたとき、お互いが笑顔になれた。
- ・普段、子供と接することがないので、一緒に歩きながら話せる幸せ。
- ・ひとり暮らしの私にとって、子供たちの元気で明るい笑顔が何より。
- ・「また来てね」など、子供たちからの嬉しい言葉に癒されます。

○子供たちの無邪気さや純粋さに触れることが、支援者の喜びにつながっている。
また、自分のサポートで子供たちの活動が円滑に進んだという実感が支援者の「やりがい」や「自己有用感」につながっている。



Q2 子供たちを支援する中で、困ったなあと思ったことはありませんでしたか。

- ・最初は視線を合わせようとしない子供もいたが、最後はうちとけた。
- ・話がなかなか噛み合わない子供もいた。

○子供たちはまっさらな状態で出会うため、予想しない反応などに戸惑う支援者もいる。
ただ、へんな先入観なしにお互いが向かい合うことも、協働活動のプラス面であるとも言える。



Q3 子供たちに伝えたいことは何かありますか。

- ・地域の人みなさんを見守っています。・元気でたくましく育ってほしい。
- ・活動を通して気づいたことを伝えていきたい。

○子供の成長を楽しみに見守っているという支援者の、ちょうど孫を見る温かい眼差しが、子供たちに安心感をあたえているのかもしれない。

Q4 学校と地域の連携・協力がさらに進むためには何が必要だと思いますか。

- ・普段から気軽に話し合える関係を築いていけたら、互いの思いも通じ合えるのではないかと思います。
- ・PTAとのコミュニケーションをもう少し図れたらと思う。子供の成長を支えていこうという思いは一緒なはずだから。

○学校とPTA、地域の三者が、より緊密に連携していくために、情報や課題を共有する場が必要になるだろう。協働活動とCSの機能を有機的につなげていきたい。

(○印の考察は蒲生コーディネーター)

令和2年熊本県地域の人づくり講座(八代教室)を開催しています。

本年度、市町村支援事業として熊本県教育委員会と八代市教育委員会が連携し、地域における人材育成を目的に、地域活動につながる学習機会として「地域人づくり講座」を5回に分けて開催しています。テーマは「あなたの力が、やっしろの子供・地域を育てます！」～「地域とともにある学校づくり」をめざして～、地域学校協働活動に関心のある八代市民、地域コーディネーター、学校関係者等に参加を呼びかけ、すでに第3回まで終了しました。今回はこれまで実施した講座を紹介します。

○第1回講座:8月24日(月)

テーマ:八代版地域学校協働活動に期待されること!

～「お互い様」が、地域、学校、子供、住民をつなぐ～
元県統括コーディネーター浅野一登氏を講師に、地域、学校、家庭の連携・協働の意義や在り方を学び、地域学校協働活動推進員等(地域コーディネーター)の役割を考えました。



○第2回講座:9月30日(水)

テーマ:できるとき、できる範囲が合い言葉!

～地域学校協働活動でやれること!～

荒尾市地域学校協働活動推進員田中なつみさんと県子ども会連合会事務局長横手宏公氏を講師に、協働活動、放課後等の学習活動、学習支援活動の具体例を知り、地域における地域学校協働活動の位置づけを学びました。



○第3回講座:10月26日(月)

テーマ:地域学校協働活動が楽しくなるコツ①!

～心の距離を近づけるコミュニケーション術!～

いけだマナーアカデミー代表池田充子さんを講師に学校・行政職員、ボランティア、子供や保護者などをつなぐコミュニケーションのスキルを学びました。



第4回、第5回は次の通りです。学校の教育課題の解決にも目を向けていきます。

第4回 11月 30日 (月)	【テーマ】地域学校協働活動が楽しくなるコツ②! ～やっしろの宝(ひと・もの・こと)を生かす術～ 【内容】 地域資源(ひと・もの・こと)の見つけ方を知り、地域資源を地域学校協働活動につなげていくよさを学ぶ。	熊本県立大学 教授 柴田 祐
第5回 12月 21日 (月)	【テーマ】地域のSOSを読み解く! ～みんな笑顔 やっしろのまちづくり～ 【内容】 地域の様々な課題解決に向け、地域の強みを生かした取組について考える。	八代市教育委員会学校教育課 指導主事 前田 博治 八代市教育サポートセンター 子ども支援相談員 西村 文子

放課後子ども教室

～八竜小学校で始まる！



7月豪雨で通学路が被害を受けた八竜小学校では、8月3日から日奈久小学校の空き教室等を使用して教育活動を始めています。登下校は全児童がスクールバスを使用していますが、早く授業が終わる低学年（1・2年生）は上級生や坂本中の生徒と一緒にバスで帰るため、放課後の待ち時間が生まれました。その時間の児童の見守りをするため、学校からの要望で「放課後子ども教室」を開始しました。学習支援員を日奈久町在住の山田健二さんに引き受けていただき、毎週金曜日に実施しています。

被災した子供の心理的ケアも含めて、児童が親や学校の先生以外の大人とふれあい、話を聞いてもらったり、褒められたり、認められたりする機会が心の安定にもつながるものと期待しています。児童たちの笑顔が広がり、八竜小学校の先生方からも感謝の言葉をいただいています。



◆◇地域学校協働活動中間報告！◇◆

コロナ禍の中、6月に学校が再開、そこからスタートした本年度の地域学校協働活動ですが、「様々な学校協力活動」「放課後子ども教室」「地域未来塾」それぞれの事業が各学校、関係者の努力とアイデアで今できることを確実に実践していただいています。いろいろな制約があり、例年通りの活動が十分できない状況ですが、地域の宝である子どもたちの健やかな成長のために、今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

参考までに、これまでの各学校の9月までの活動例を紹介します。



〈小学校実践事例〉

まち探検補助、交通安全教室補助、からいも苗植え補助、ミシンボランティア、タイムカプセル会議連絡調整、給食支援、クラブ活動支援、引き渡し訓練補助、『八代海「河川・浜辺の大掃除大会」』参加補助、パンづくり体験サポーター、茶道教室講師依頼、ふれあい農園の手入れ、学校除菌作業補助、運動会テント設営補助、校内の樹木剪定・伐採補助、マスク作り 等

〈中学校、支援学校実践事例〉

高齢者支援マップ作製支援、体育大会サポート、法被作成支援、職業講話講師依頼、PTA 愛好作業支援、家庭科補助（着物着付）、運動会写真撮影補助、家庭科補助（裁縫）、山芋の棚立て作り支援、合唱コンクールの審査員依頼、書写会の指導者依頼、不登校生（別室）支援 等



《代陽小 家庭科補助》



《東陽中 家庭科補助》



《四中 地域未来塾開級式》



《泉小 放課後子ども教室》

つなぐ

八代市地域学校協働本部（生涯学習課内）

令和3年1月19日(火)発行 ☎0965-30-1110

令和2年熊本県地域の人づくり講座(八代教室)無事終了！

「あなたの力が、やっしろの子供・地域を育てます！」～「地域とともにある学校づくり」をめざして～をテーマに、5回に分けて開催してきた「地域の人づくり講座」が無事終了しました。参加者の皆様の熱心な眼差しから、地域と学校がパートナーとして連携・協働する地域学校協働活動の理解が深まり、推進に寄与したものと思います。本当にありがとうございました。前号で第3回まで紹介していましたので、今回は残りの講座を紹介します。

○第4回講座：11月30日（月）

テーマ：地域学校協働活動が楽しくなるコツ②！

～やっしろの宝（ひと・もの・こと）を生かす術～

熊本県立大学教授柴田祐氏を講師に、地域資源（ひと・もの・こと）を地域学校協働活動につなげていく方法やコーディネーターの関わり方について学びました。



○第5回講座：12月21日（月）

テーマ：地域のSOSを読み解く！～みんな笑顔 やっしろのまちづくり～ 八代市学校教育課前田博治指導主事、八代市教育サポートセンター西村文子支援相談員を講師に、多くの主任児童委員にも参加いただき、学校の課題（不登校問題）の解決に向け、地域の強みを生かした取組について考えました。



《参加者のアンケートより》

- ・「地域の宝、子どもたちが健全に育っていくこと」を中心にすえた地域の人づくり講座、大変参考になりました。地域づくりに関わる中で子どもたちの成長に関わっていきたいと思います。
- ・地域学校協働活動がうまく機能していくこと、子どもたちの自尊感情も学びに向かう姿も大きく変わっていくことを実感できました。
- ・子どもたちの中に不安を抱えている者が増えており、その要因や背景が多様化していることを強く感じました。また、社会的自立を促すための手立てや対応のヒントを知ることができました。
- ・学校と地域が共に子育てを支えることができるこの取組は子育てをしている親にとって心強いと思います。是非、地域に根づいてほしいと願っています。
- ・不登校の問題を学校だけでなく地域で取り組む問題として取り上げて、八代市の現状を説明していただきとてもありがたいです。子どもたちの自尊感情が高められるように学校・地域で活躍の場があるとよいと思います。

学校協力活動紹介



《八千杷小:焼き芋補助》



《文政小:消毒作業》



《千丁中:書写指導》



《郡築小:門松作り》

◆◆地域学校協働活動にはどんな効果があるの？◆◆

子どもたちへの効果

協働活動を通じて、子どもたちが信頼できる大人との関わりを持ち、ほめてもらったり、認めてもらったりすることで、自分たちや、周りのことを愛し、思いやる気持ちが育つことが期待されています。自分の住む地域への愛着心につながり、本市で大切に育てていきたい子どもたちの姿です。



自己肯定感や思いやりの醸成

コミュニケーション能力の向上

学力の向上

地域の一員としての自覚

全国的に、地域の人たちが子どもの教育に関わっている学校ほど、全国学力・学習状況調査における正答率が高いという結果も出ています。

地域への効果

学校の課題解決につながる活動を通じて、地域づくりの担い手が育成されるとともに、地域の教育力が向上します。



自らの知識や技能、学びの効果が教育の場で生かされる事で、地域住民の生きがいや自己実現の機会がつけられます。例えば、ある小学校においては、コミュニティセンターで行われている趣味講座の受講生が小学校の自主クラブ活動の講師役になって、子どもとのコミュニケーション能力の向上に役立ち、自分たちの生きがいづくりにつながっています。

さらに、災害時における避難所運営など非常事態の円滑な体制づくりにつながることが期待できます。

生きがい・やりがいが出た。

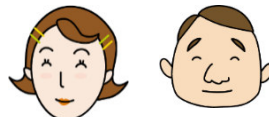
子どもたちから元気がもらえた。

学校に対する理解が深まった。

仲間ができた。

災害時におけるスムーズな対応に期待

学校・職員への効果



学校行事 各種の学校行事にボランティアの協力が得られたことで、教育活動が充実しました。地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）による地域団体への理解やつながりにより、学校行事を円滑に実施できました。

学校行事が円滑に実施できた。

環境整備 地域住民によるボランティアの参加が年々増え、学校図書館や花壇等の環境整備が充実しました。

学校の環境整備が充実した。

授業補助 授業補助へのボランティアの導入で、配慮が必要な児童・生徒への支援がで

子どもたちと向き合える時間が、増えた。

きるようになりました。また、子どもたちと向き合える時間が増えました。

職場体験 地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）が、中学生の職場体験学習の受入先の連絡調整役を引き受けてくれて、教員の負担軽減につながっています。

教員の負担軽減につながった。

学校経営 地域と学校が子どもの成長に向けた目標を

地域の皆様に学校への理解と協力が得られるようになった。

共有することで、「社会に開かれた教育課程」の実現が図られます。

教育や子どもたちに対する責任と役割を地域と分かち合うことで、学校の教育活動に対する理解者と支援者が増えました。

※八代市「地域学校協働活動」～地域とともにある学校づくり～【マニュアル】より抜粋

つなぐ

八代市地域学校協働本部（生涯学習課内）

令和3年7月14日(木)発行 ☎0965-30-1110

みなさんの理解と協力で 子ども・地域を元気に！！

◎地域学校協働活動とは地域と学校がパートナーとなり、
地域全体（学校を含む）で子供たちの成長を支え、地域を
元気にする活動です！

八代市では、これまで「様々な学校協力活動」「放課後子ども教室」「地域未来塾」として、それぞれ個別の事業として実施してきた3事業を統合し、コーディネート機能と多様な学校支援活動を充実させた「地域学校協働活動」を新たに昨年度、27校でスタートしました。本年度はほぼすべての小・中・特別支援学校でスタートする予定となり、各学校において地域コーディネーターの推薦、事業計画の策定と動き出しているところです。

コロナ禍の中ですが、様々なアイディアを出し合いながら、今できることを確実に実践していきたいと考えております。今後も、地域・保護者の皆様のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

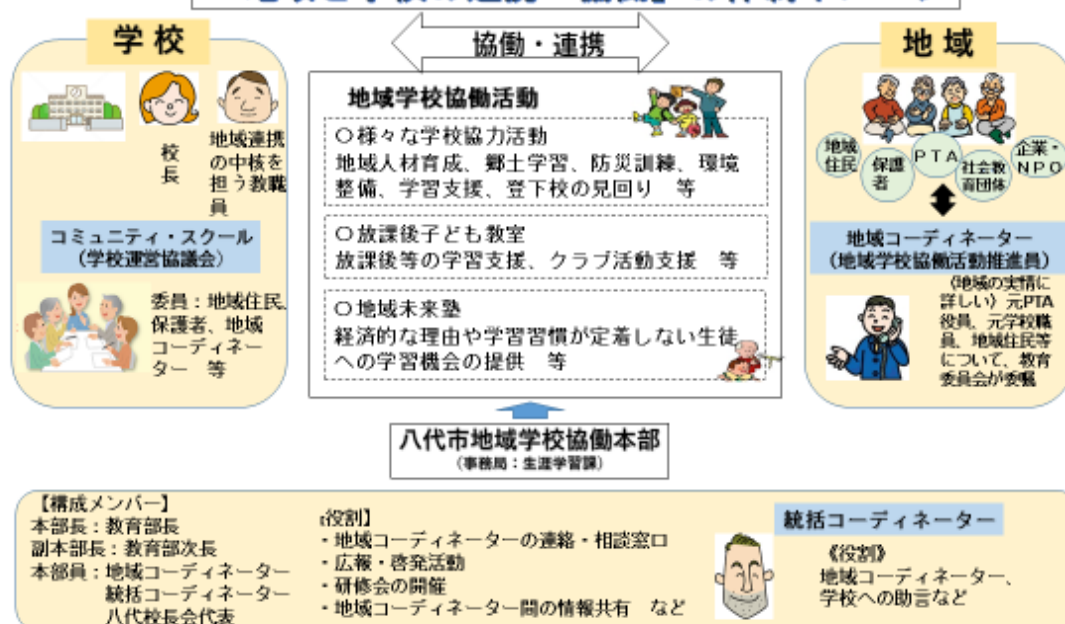


《昭和小学校 太鼓披露4 /11》



《松高小学校 まち探検6/8》

「地域と学校の連携・協働」の体制イメージ



令和3年度第1回八代市地域学校協働本部会議を開催しました。



6月28日（月）午前10時から、八代市公民館において本部長（教育部長）をはじめとする八代市教育委員会関係者及び本部員（八代校長会代表2名・統括コーディネーター3名・地域コーディネーター24名）が参加し、第1回八代市地域学校協働本部会議を開催しました。地域コーディネーターへの委嘱状交付後に議事に入り、八代市地域学校協働（推進体制や地域コーディネーターの役割・活動の流れ等）や本年度の事業計画（活動内容や強化事業等）についての説明、事例紹介（三中校区 発表者：坂田智子地域コーディネーター）、最後に質疑を行いました。閉会后には事務手続きの変更点等の説明をさせていただきました。

新任の地域コーディネーター9名をはじめ、地域コーディネーターみなさん1年間お世話になります。協働本部では皆さんの活動をしっかり応援していきます。よろしくお願いします。

◎地域コーディネーターとは？

- ・市内の全小・中・特別支援学校に配置予定です。
- ・地域コーディネーターは円滑に協働活動ができるように、学校と地域の橋渡し役をします。
- ・学校の教職員や教育にとって、「地域の方ならではの頼りたいチカラ」があります。郷土文化や防災・減災について、幅広い世代と子どもたちとの関り……。地域コーディネーターが教職員の思いを、地域のチカラをつなぎます。



※ 地域コーディネーターの呼びかけにご協力ください。

地域学校協働活動ボランティアを募集しています！

～ 八代市の地域学校協働活動ボランティアの基本方針は“できる人ができるときにできる範囲内に”です～

八代市地域学校協働本部では、地域の人材を地域学校協働活動ボランティアとして活用することにより市立小学校、中学校、特別支援学校の教育活動の充実を図り、家庭、地域及び学校が一体となり地域ぐるみで子どもたちの生きる力を育み、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進することを目的に「地域学校協働活動ボランティア人材バンク制度」を創設し、ボランティアを広く募集しています。

ボランティア活動には実にさまざまな支援（読み聞かせ、校外学習の引率、草刈り、学校農園の手伝い、児童の見守り、各教科の学習支援、放課後子ども教室の支援・安全管理等）があります。

★自分の特技を生かして子育て支援に関わりたい。

★地域の子どもたちと仲良くなりたい。

★家庭の外での子どもたちの姿を知りたい。

活動に興味をお持ちの方、ぜひ下記の連絡先までご連絡下さい。

《連絡先》八代市地域学校協働本部（八代市教育委員会生涯学習課） ☎ 30-1110

つなぐ

八代市地域学校協働本部（生涯学習課内）

令和3年10月12日(火)発行 ☎0965-30-1110

令和3年度八代市地域学校協働活動第1回地域コーディネーター連絡調整会議を開催しました。

9月28日(火)午前10時から、八代市公民館において地域コーディネーター18名に参加いただき、協働本部主催の連絡調整会議を開催しました。諸連絡(ボランティア人材バンクの活用・まなびフェスタ展示作品募集・「地域の人づくり講座」参加案内)後に協議に入り、地域学校協働活動実施上の課題解決に向けて、テーマごとに班別協議、情報交換を行いました。

テーマは「学校と地域は連携が取れていますか?」「学校の誰(先生)、地域の誰と連携をとればよいですか?」「ボランティア人材バンクの登録してほしい人材・団体はありますか?」「コロナ禍での活動はどんなですか?」「連絡調整会議をオンライン会議にしてもいいですか?」

活動が軌道に乗っている学校もあれば、これからの学校もあり悩みはそれぞれ違いますが、いろいろな活動や悩みを地域コーディネーターどうして共有でき、貴重な時間となりました。



令和3年度熊本県「地域の人づくり講座」(八代教室)第1回を開催しました。



10月5日(火)午前10時から、八代市公民館において地域コーディネーター、地域婦人会、社会教育委員に参加いただき、県及び八代市教育委員会主催の「地域の人づくり講座」を開催しました。

今回は内閣府地域活性化伝道師の三角幸三先生を講師に招き、「地域と学校の連携～CSMAPで計画づくりと評価～」と題して、地域学校協働活動の目標やボランティアの定義や形態等の講義に加え、年間指導計画に地域人材を埋め込んでいくCSMAP(コミュニティスクール・マネジメント・アクティビティー・プログラム)の作成をしたり、活動の悩み相談についての回答を班ごとに協議したり参加型の研修が行われました。

具体的な事例をもとに作成された研修プログラムで、参加者からも日頃悩んでいる課題に沿った身近な事例でとても参考になったという声をたくさん聞きました。

活動紹介《地域未来塾》

地域学校協働活動の一つの事業である「地域未来塾」は、学習習慣が未定着である生徒や深く学びたいと感じている生徒に対して、放課後の時間等を利用した補充学習や発展学習を行い、生徒の学びを保障するものです。今年度は、一中、三中、四中、六中、日奈久中(夏休み特設)、二見中、鏡中で実施、生徒から学習者を募ったり、不登校傾向の別室登校者を対象にしたり、それぞれの学校の実態に合わせて対象者の学びの保障を図っていただいています。

9月22日(水)、四中を訪問させてもらい、学習の様子を見せてもらいました。運動会が終わったばかりでしたが、疲れた様子もなく、楽しそうに生徒たちが取り組んでいました。各学年によって人



[1年生]



[2年生]



[3年生]

数や雰囲気の違い、学習支援員さんたちもそれに合わせてたいへん工夫されていました。生徒たちには、これからもこの機会を大事にして活用してもらいたいものです。

活動紹介 《様々な学校協力活動》

《代陽小学校・車いす体験》

9月30日、まん延防止等重点措置が解除され、引き続き感染防止対策を徹底しながらも、少しずつ地域学校協働活動も軌道に乗りつつあるようです。さっそく、10月6日(水)代陽小学校の4年2組の“車いす体験”の授業に6人のサポーターの一人として参加させていただきました。当日は秋晴れ(帽子と水筒をしっかりと準備)2校時と3校時の2時間、アーケードに移動をして、福祉協議会の協力のもと、車いすに乗ったり、アイマスクをつけて点字ブロックを歩いたり、実際に体験することでたくさんの学びができたようです。まだまだ十分に障がい者のことを理解できたわけではありませんが、考えるきっかけにはなったと思います。ただ、きっと点字ブロックにもものを置いたり、自転車を置いたりすることはないと感じました。



校長室で地域コーディネーターとサポーターと校長との打ち合わせ



サポーターが見守りながら本町アーケードへ移動



福祉協議会の方から車いすの扱い方や目の不自由な方の誘導の仕方を聞き、二人一組で体験



八代市地域学校協働活動ボランティア人材バンク登録者紹介 [第1回]

前はボランティアの募集をお願いしました。これからは、人材バンクを活用してもらうためにボランティア登録者を紹介していきたいと思います。今回は「やっちょろやっ隊」西代目会長 武部小太郎さん(中華料理太楼)を紹介します。

①やっちょろやっ隊とはどんな組織？

2009年、若手の飲食店経営者が「食から地域を元気に！」をスローガンに誕生した団体です。現在メンバーには地元飲食店経営者・農業生産者など約15店舗・20名ほどが在籍しており、市内の学校へ出向き料理教室、食育講座や地元はもちろん県内外のイベントに出店するなどいろいろな活動に積極的に参加しています。

《右側が武部小太郎さん》



②最近、学校へ出向いて行った経験は？

やっちょろやっ隊としては、昨年、八代中学校の食育講話に行きました。コロナ禍で体育館での授業でしたが講師は3名、私はトッピングバッターで話をしました。過去には七中や東陽中にも行っています。

個人としては母校の三中に食育のゲストティーチャーとして何度か行かせてもらっています。最初はとても緊張しました。後輩たちに興味を持ってもらうためにはどうしたらいいか悩みましたが、自分の経験(学生時代に柔道でオリンピックに同行したことや中国に留学したことなど)を交えて食の大切さを伝えています。

③今後の抱負は？

「食から地域を元気に！」という思いは強く持っています。しかしコロナ禍の中、食のイベントでは地域を元気にするのは難しい。そこで、コロナ禍で移動が制限され、楽しみが少なくなった今こそ、イベントを工夫して地域の人たちを元気にしたいと考えています。

個人的には、県外の友人たちがわざわざ「中華料理太楼」の料理を食べに来てくれ、とても感謝しています。今後は、八代ならではの名物料理を作り、多くの人に食べてもらえたらいいなと思っています。

※令和3年10月12日現在、やっちょろやっ隊から8つの個人・団体を人材バンクに登録してもらっています。食育や職場体験の受け入れに協力いただけるということです。

つなぐ

八代市地域学校協働本部（生涯学習課内）
令和3年11月30日(火)発行 ☎0965-30-1110

令和3年度熊本県「地域の人づくり講座」(八代教室) 第2回を開催しました。



11月11日(木)午前10時から、八代市公民館において地域コーディネーター、地域婦人会、社会教育委員に参加いただき、県及び八代市教育委員会主催の「地域の人づくり講座」を開催しました。

今回は玉名市立玉陵中学校の丸塚慎一郎校長を講師に招き、「子どもたちは地域の宝～子どもたちの瞳が輝くために～」と題して、玉陵小中学校の学校運営協議会や地域学校協働活動の事例を通して、学校現場の状況や地域との関係に対して校長先生の生の声を聞かせてもらいました。そこでの学びを3点紹介します。

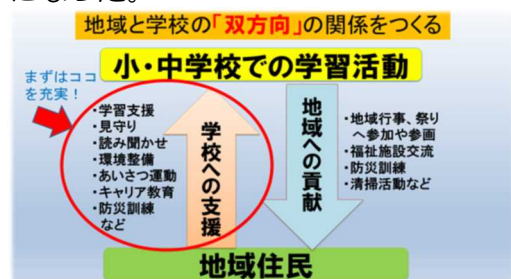
○環境が人をつくる…美しく整備された環境のもと、地域住民から毎日声をかけてもらうことで、子ども達は安心して生活でき、落ち着いた学校生活を送ることができている。結果として、教職員の負担軽減がなされるようになり、働き方改革につながった。

○地域が一つに…学校支援をはじめとした地域学校協働活動の取組が、統合後の旧6小中学校区をつなぐ取組に変化している。

学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員が学校で熟議を

重ねながら、「地域どうしをつなぐ」役割を担うようになった。

○地域と学校の「双方向」の深まり…各教科、学校行事での支援が充実しており、地域住民の教育力が、生きがいや自己実現の場になっている。一方、児童・生徒は地域住民から「してもらう」だけでなく、流鏝馬や神楽といった地域の祭り、敬老会の手伝い、金栗四三子どもガイド、新玉名駅の寄せ植え設置などのボランティア活動に参加・参画する人数が年々増加し、積極的に貢献しようとする態度が見られるようになってきている。



《地域貢献への仕掛け：新玉名駅の寄せ植え設置》

学校だけでなく地域にも花があったらいいな～

仕掛けは大人、活動の主体は子供！

土づくり、プランター、準備、連絡調整等



活動の主体
大人

寄せ植え
子ども

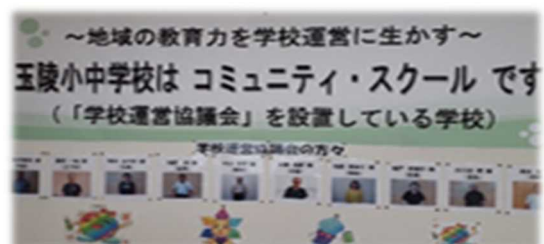
育てる
子ども

運搬
子ども

贈呈式
子ども

手入れ
子ども

ところで、事前に玉陵小中学校を訪問させていただきましたが、玄関を入るとすぐの壁面に地域コーディネーターをはじめ学校運営協議会員の顔写真入りの紹介と楽しそうな活動の様子を写した写真が心に残りました。児童・生徒や来校された地域の方々がこの掲示を見て微笑む様子が目に浮かびます。



◆◇地域学校協働活動中間報告！◇◆

2学期もあと残すところ1か月となりました。今年度もコロナ禍において、いろいろと制約がある中でスタートした地域学校協働活動ですが、「様々な学校協力活動」「放課後子ども教室」「地域未来塾」それぞれの事業が各学校、関係者の努力とアイデアで少しずつではありますが確実に実践していただけてきました。現在は県の感染リスクレベルもレベル2に引き下げられ、少しコロナも落ち着きが見られる中、いろんな活動報告が地域コーディネーターからたくさん寄せられるようになりました。

参考までに、これまでの各学校の11月までの活動例を紹介します。

〈小学校活動例〉

放課後子ども教室、まち探検補助、交通安全教室補助、田植え・稲刈り補助、からいも苗植え・収穫補助、ミシンボランティア、クラブ活動支援、学校除菌作業補助、学校行事写真撮影補助、地域探検活動見守り、避難訓練下校見守り、放課後学習会、別室登校児童の活動支援、習字指導補助、校内の樹木剪定・伐採補助、等



《郡築小 まち探検補助》



《泉小 放課後子ども教室》



《宮地小 ミシン授業補助》



《文政小 ミシン授業補助》



《松高小 妙見祭花奴体験》



《有佐小 有佐駅清掃活動》



《泉八小 樺木神楽》



《泉小 芋の苗植え体験》



《昭和小 太鼓体験》



《二見中 地域未来塾》



《日奈久中 サマースクール》



《二中 認知症サポーター養成講座》



《東陽中 家庭科授業補助》



《八中 美術授業支援》



《八中 芋掘り体験支援》

〈中学校、支援学校活動例〉

地域未来塾、地域学習フィールドワーク支援、体育大会運営補助、家庭科支援(着物着付)、家庭科支援(裁縫)、技術科木材加工支援、美術授業支援、職場体験場所の発掘・連絡調整、職業講話講師依頼、認知症サポーター養成講座支援、引き渡し訓練支援、読み聞かせ、不登校生(別室)支援 等

令和3年度八代市地域学校協働活動第2回地域コーディネーター連絡調整会議を開催しました。

12月15日（水）午後2時から、八代市公民館において地域コーディネーター13名に参加いただき、協働本部主催の第2回連絡調整会議を開催しました。協議では、事前に地域コーディネーターから質問いただいた全国学力・学習状況調査の質問項目「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の結果をもとに地域学校協働活動の意義について考察しました。

その後、地域学校協働活動の活性化について、「子どもたちが地域や社会のことを考えるようになるには」をテーマに協議を行いました。「子どもたちが地域の大人と触れ合う機会を多くする。」「地域の核となるイベント等（祭り、駅伝、神楽）を大事にする。」「行事を工夫して参加できる体制をつくる。」など、熱心な意見をいただきました。

質問：地域や社会をよくするために何をすべきか考えることはありますか

「1 あてはまる」「2 どちらかといえばあてはまる」

57.3%（H31）→52.4%（R3）に減少（八代市小学生）

36.4%（H31）→41.4%（R3）に増加（八代市中学生）



令和3年度熊本県「地域の人づくり講座」（八代教室）第3回を開催しました。



12月23日（木）午前10時から、八代市公民館ホールにおいて地域コーディネーター、主任児童委員、地域婦人会、社会教育委員、学校関係者に参加いただき、県及び八代市教育委員会主催の「地域の人づくり講座」を開催しました。

今回は八代市適応指導教室「くま川教室」白濱孝治室長、宮崎ゆみ子指導員を講師に、本市の不登校児童生徒への支援の拠点である「くま川教室」の取組について紹介していただきました。

「くま川教室」では、各教科や各種教育活動を含めた年間行事の中、多くの体験と人との出会いを通して、他の人とつながる力をつけ、自立できる子どもを育てられています。また、それには地域の支援等も大きな役割を果たしているということを知りました。

また、子どもの成長には「自分で選んで決めていく」経験が必要であること、待つこと信じることが大切であること、家族を支えること、子ども同士で育ち合い成長することなど、不登校生や別室登校生と対応するときの心構えとしてとても参考になりました。

現在、地域学校協働活動でも学校の課題（別室登校生対応）を解決したいという校長先生の思いから、9校が地域人材を活用して取り組んでいただいています。今後、更に活動の輪が広がっていくものと思います。今日の講演は私たちには何ができるか考える良い時間となりました。

八代市適応指導教室「くま川教室」とは？

不登校状態にある児童生徒に対し、何らかの原因で失っている自信を取り戻し、心を安定させ、元気をとりもどせるよう支援を行います。

学校復帰を目指す

子供への関わり方

○受容 → あるがままの子供の姿を受け入れていく

○共感 → 子供の思いに寄り添う

○支援 → 子供が困ったときに適切な言葉がけをする

《参加者のアンケートより》

- ・学校復帰、社会的な自立に必要なことは人との関わり、コミュニケーション、交流ができるようになることで、それには地域の支援等も大きな役割を果たすことができるんだなあと思いました。
- ・「自分のペースで歩いていけばいい」この言葉が印象に残りました。自己有用感を持たせることが大切だと感じました。
- ・今、学校の保健室登校の児童を見守る活動をしています。毎日、同じ時間に来れない、教室に入れない子どもたちにどういった対応をしたらいいか、とても参考になりました。

活動紹介 《様々な学校協力活動》

1月に入り新型コロナウイルス感染症のリスクレベルが引き上げられ、引き続き感染防止を徹底させながらの教育活動が続いています。地域学校協働活動も予定されていた活動を中止せざるを得ない状況も続いています。今年度で市内の全39校の小・中・特別支援学校に地域コーディネーターが配置され、地域社会全体で子どもたちを育てる環境が整いつつある段階で残念ではありません。今回は11月以降に提供いただいた活動写真を紹介します。



《松高小 エフロン作成支援》



《八中 卒業証書づくり支援》



《太田郷小 傾聴ボランティア》



《二中 絵手紙支援》



《泉小 ミニ門松づくり支援》



《文政小 大根収穫支援》



《郡築小 門松づくり支援》

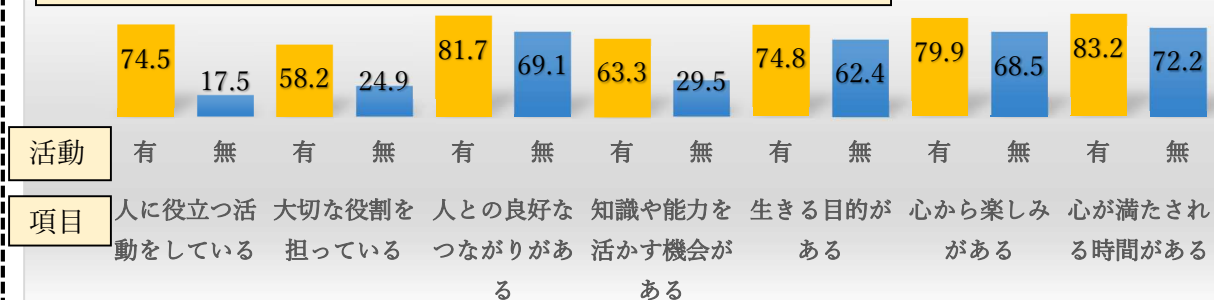


《東陽小 書写支援》

ボランティア活動で生きがいづくり！

学校を核とした
地域づくり

「ボランティア活動の有無」と「生きがい要素に係る意識」のクロスグラフ
《「そう思う」+「まあそう思う」（単位は％）》



〔出典〕「高齢者の社会参加と生きがい」桃山学院大学総合研究所紀要 第43巻第2号



今まで学校と家庭が行っていた教育を、なぜ地域も協力しなければならないのかとの疑問をよく耳にします。

上のグラフを見てください。グラフでは、ボランティア活動をしている人は、していない人と比較して、生きがい要素の項目について「そう思う」「まあそう思う」人が総じて多い結果となっています。このことから、ボランティア活動が地域住民の生きがいづくりや自己実現につながっていることが分かります。

また、地域住民同士のつながりも生まれているようです。例えば、日頃から地域連携が進んでおり、顔の見える関係づくりができていると、災害時の避難所運営も円滑にできるということは、東日本大震災や熊本地震でも言われていたことです。

学校を拠点として、子どもや保護者、教職員、地域住民たちと関わり合うことは、まさに顔の見える関係づくりの実現につながります。

また、活動されている人たちに話を聞くと、「『最近の子どもたちは』と否定的に思っていたが、『子どもたち、そして先生たちって頑張っている』と思うようになった。」と学校への理解が進んだという意見も寄せられています。

